

NHK 番組
夏の特別提供
考えよう
「平和」
2021

NHK スペシャル
“ヒロシマの声”がきこえますか
～生まれ変わった原爆資料館～

2019年、広島原爆資料館が、戦後最大のリニューアルを行った。遺品や資料に「持ち主のエピソード」や、「残された家族の思い」を記して展示。被爆者が高齢化する中、遺品や資料に、被爆者の思いを語ってもらおうとしている。被爆者なき時代が迫る中で、未来に被爆を継承しようと模索を続ける「ヒロシマ」。被爆者や遺族たちが原爆資料館に託した“ラストメッセージ”に迫る。(2019年8月6日放送)



NHK スペシャル
東京大空襲 583枚の未公開写真

10万人余りの市民の命が奪われた「東京大空襲」。67年を経て、新たに空襲直後の市民の姿を捉えた580枚余りの写真が発見された。写真を撮影したのは、陸軍参謀本部の指示を受けた従軍カメラマンたちだ。カメラマンは、爆撃直後に逃げ惑う市民や、火の海と化した街並みなどの地上被害を記録していた。写真に記録された東京大空襲の真実に迫る。
(2012年3月18日放送)



目撃！につぼん
のこ
祖父が遺した戦争
米軍カメラマン よみがえる記録

米軍カメラマンが終戦直後の九州で撮影した100枚を超える写真が見つかった。本来は軍に提出すべき写真が密かに保管されていたのだ。カメラマンの孫がこの夏、その写真の現場をたどる旅に出た。佐世保から鹿児島へ、祖父の足跡をたどりながら空襲の体験者の話を聞き、無数の市民が犠牲となった戦争の実態に迫る中で、祖父が写真を残した意味を考えていく。
(2017年10月1日放送)



みんな生きている
せんせう
間かせて戦争のこと

沖縄県読谷村に住む小学4年生の嘉納英佑くんは、毎年夏、祖父母の戦争体験を聞いて感じたことを詩に書いている。「ひいおじいさんが亡くなったと聞いた時、息子であるおじいさんはどう思ったのだろう」聞きたいけれどなかなか聞けない英佑くん。終戦の日に向けて、犠牲となった家族と向き合う英佑くんの目線から見える戦争を描く。(2008年9月24日放送)

